

2016 年度入学式 式辞

本日、尚絅学院大学、尚絅学院大学大学院の入学式を迎えられた皆さん、まことにめでとうございます。心よりお祝いを申し上げ、歓迎をいたします。

本日入学された皆さんの多くは、5年前のあの東日本大震災の際にはまだ中学生だったと思いますが、震災後の様々な試練を乗り越えて勉学に励み、今日の栄えある入学の日を迎えられた、その地道な努力と、高い志に、心から敬意を表します。

またそのような若い歩みを見守り、支え導いてこられた保護者、ご家族の皆様におかれましても、今日まで長い道のりだったと思います。心からのお喜びを申し上げます。

(尚絅学院の歴史と建学の精神)

尚絅学院は、明治 25 年に、米国から派遣された宣教師によって設立されて以来、東北の人と信頼を育てて 123 年余という、伝統のある学校です。尚絅とは、絅を尚えると読みます。中国の古典にある「衣錦尚絅」（錦を衣て絅を尚う）という言葉から採られたものです。内には錦を着て、つまり人間の内面を磨いて、しかしそれを絅、つまり薄い衣で包んでひけらかさない、そういう謙虚な生き方の大切さを述べたものです。それは、さらに、既存の価値観やその時々の見かけの評価にとらわれず、全ての隣人と共に歩もうとする、キリスト教の自由な精神に通じるものでもあります。

本学はそのようなキリスト教の精神を土台として、自らを磨き、他者と共に生きることを志す、そういう人間の育成を建学の精神とし、永い伝統に根差すと同時に、2003年に、男女共学の4年制大学として新しくスタートした、若い大学でもあります。

(本学の教育の特徴)

さて、皆さんが大学での学びに期待しているものは何でしょうか。学歴、資格、就職、あるいは課外活動や友人との楽しいキャンパスライフなど様々でしょうが、しかしその核心にあるのは、夢の実現を目指して自分の人生を自ら切り拓いていく、本当の実力ではないでしょうか。皆さんの先輩は、全国的に見ても極めて高い国家試験合格率や進路決定率などの実績を挙げていますが、それは、本学での学びの中で、学生が身につけた基礎力と教養の一つの結果に過ぎません。

本学では、本年度から新しい中期計画がスタートします。そこでは、東北の未来を支える「総合的な人間力」の育成を目指し、少人数で実践的な教育、グローバル時代に対応する能力の育成を推進することとしています。「総合的な人間力」とは、専攻分野における基礎力に裏打ちされた教養、他者への共感に根差し様々な人と協働する力、そして地域の、日本の、ひいては世界の未来を切り拓く志と行動力を総合したものです。

では、実際にはどんな授業をしているのでしょうか。一つの例をご紹介します。先日私のところに、ある授業の記録をまとめた冊子が届きました。学生が、CDやDVDの紹介、ブックレビューなどのコンパクトな文章の創作に取り組んだ、その作品集でした。はしがきには、こう書いてありました。

「例年にも増して学生同士のディスカッションが白熱した今年度、木曜4限の4号館112番教室は、イカれたライブハウスさながらの空間となった」

ページをめくると、それぞれに今どきの若者らしい、工夫を凝らし思いのこもった作品が並んでいましたが、最後の方のある作品に、やや違和感のある表現がありました。そこにはこう書いてありました。「不正がはびこる現代社会において、社会に出たとき、我々若者はどれだけ正しい判断で行動できるのだろうか。」

この、見方によっては安直な道徳の時間の宿題のように見えなくもない問いを、学生が学生同士の語り合いの中で自らに、また同世代に対してまじめに問い、そしてそれをそのまま敢えて消さずに作品に残そうとしたのだとすれば、その表現の巧拙はおくとしても、このイカれたライブハウスの空間の中で学生たちは、単なる表現技法の修得を超えたもの、本を読み解き、仲間と語る中から、より良い未来に向けて自らに何ができるかを問う力、言い換えれば表現する「中身」を鍛えている、とっていいのではないかと思うのです。

それは、総合的人間力の一つの形であり、それを培う授業の一つの例に過ぎません。幅広い分野を一つのキャンパスで展開しているこの大学では、たくさんの可能性が皆さんを待っています。しかし、可能性が待っているというだけでは何も実現しません。皆さんがその可能性をがっちり掴み、行動する、アクションを起こすことが必要です。

(Goodness 良き志)

尚綱学院の初代校長である、アニー・ブゼル宣教師は、ambition (大志) と共に goodness (良い志) ということが大切だと説きました。そして、次のように述べています。

「私たちは金持ちであろうと貧乏であろうと、高い地位にしようと目立たぬ片隅で静かに働いていようかどうかという違いはありません。しかし私たちが good である時、世界は初めて良き所となるのです」。

皆さん、どうでしょうか。ambition つまり大きな志は、goodness つまり良い志に裏打ちされて初めて、この世の中をより良くすることにつながるのではないのでしょうか。先の学生の表現を借りれば、「正しい判断で行動」する基準となるものと言っていいかもしれません。今日の世界情勢をみると、また地域の復興、そして創生を考えると、私たちは、この、誰にとってもごく身近な言葉の持つ重みを、改めて、深くかみしめる必要があるように思います。とりわけ、東日本大震災で大きな被害を被った名取の地に立つ大学として、私たちは、その使命を、しっかりと、引き継いでいきたいと思えます。

皆さんの学びを、教職員はもとより後援会や同窓会、地域の多くの人たちが応援しています。尚綱学院大学の学び舎に集う仲間として、心のうちに尚綱の goodness の伝統を共有しつつ、社会に貢献する志を持って、新しい大学の歴史を共に創っていきましょう。皆さんがその主役なのです。

今日から始まる学生生活が、希望に満ちた、充実したものとなるように、そして皆さんのこれからの人生に、豊かな祝福を心から祈り、2016年度入学式の式辞といたします。

2016年4月4日

尚綱学院大学学長 合田隆史